

**件名：現地メディア向けプレスツアーを行いました(ブラザビル市他)**

2018年3月13日、ブラザビル市内他で現地メディア向けプレスツアーを実施し、新聞社7社、テレビ2社のジャーナリストとカメラマン計11名が参加しました。このプレスツアーは、日本の開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やし、コンゴ共和国の政府関係者及び同国民への情報発信を強化するものです。

本プレスツアーでは、日本による対コンゴ共和国経済協力、2016年のアフリカ開発会議(TICADVI)及び翌2017年のTICADフォローアップ閣僚会合の成果を説明した後、草の根無償資金協力事業サイト2件及び国際機関経由で実施している補正予算事業サイト3件の視察を行い、TICADVIで発表された「ナイロビ宣言」の主軸である「経済構造改革の促進」、「強靱な保健システムの促進」及び「社会安定化の促進」が、コンゴ共和国においても重点的な事業として行われていることを確認しました。また、各案件の関係者より、日本国民に対して改めて深い感謝の意が示されました。

まず、ジャーナリスト達が訪問したのは、ブラザビル市内第4区にある平成25年度草の根・人間の安全保障無償資金協力にて整備されたカトリック系私立学校「聖エスプリ・ムンガリ小学校」です。ジャーナリスト達は、学校内を視察し、関係者へのインタビューを行いました。施設の責任者であるマサンバ調整員は、日本の支援により校舎とトイレ等が建設され椅子机等の施設が整備されたことで、生徒の学習環境が改善した旨を笑顔で報告しました。また、マサンバ調整員は、日本が寄付してくれた誇り高い学校であり、2015年2月の竣工式以降、しっかり維持管理してきた旨報告し、今後も継続する旨の決意を表明しました。



校舎を視察するジャーナリスト



トイレ棟を視察するジャーナリスト

続いて、ジャーナリスト達は、ンブ・マバ省官房長、マルケス・デ・スーサUNICEFコンゴ共和国事務所長、ブローワーWFP同所長とともに、ブラザビル市内第6区にある、平成27年度補正予算事業「学校教育を受けていない若者へのエンパワメント(UNICEF経由)」のサイトであるンガマコソ再教育センターを訪問しました。2014年に設立された再教育センターは、家庭の経済事情等を理由に学校教育を中断した若者に再挑戦の場を与える教育機関でありブラザビル市内に18校あります。現在、ンガマコソ・再教育センターでは児童191名(内、女兒141名)が学んでいます。ジャーナリスト達は、卒業生第一号のグレッセ・ムバッシ、2017年の再教育の小学校修了証最優秀者であるリザニ・ニャンガをインタビューし、両名からは、教育機会を得たことで「将来の夢」を持つことができた喜びが述べられ、日本に対する感謝の言葉が述べられました。また、ンガマコソ・再教育センターの学校長は「再挑戦の機会を与えられるンガマコソ・センターを貴重な遺産として維持管理していきたい」と意思を表明しました。



ンガマコソ再教育センターの卒業生第一号であるグレース・ムバシ(写真奥中央右)と、2017年の小学校卒業証書の成績最優秀者(再教育)であるリザニ・ニャンガ(写真奥右から3番目)取材するジャーナリスト



生徒とともにUNICEFが作成したンガマコソ再教育センターの広告ビデオを鑑賞・取材するジャーナリスト

3件目の訪問先は、平成27年度補正予算事業「学校給食(WFP経由)」の食糧配布先である、プール県キンテレ地区ジリ・ポン小学校です。コンゴ(共)の給食事業は2002年に開始し、日本は2007年以降、WFPを通じて2000米ドルを支援してきました。ジリ・ポン小学校は、2016年から、日本・WFP学校給食事業の対象学校に指定されています。

ジャーナリスト達は、保護者会による給食の準備・配布、給食時間の生徒の様子を視察し、学校関係者に取材しました。マコキッサ地域視学官長は、学校給食開始後、生徒の出席率の上昇、生徒数の増加が確認できた旨報告しました。また、サマ校長は、良質な食糧を提供できる学校給食は児童と親の健康に裨益していると説明し、日本に対して感謝の意を表明しました。



保護者会長を取材するジャーナリスト



学校給食を食べる生徒を取材するジャーナリスト(メニューはご飯と豆の煮込み)

4つめの視察先は、ブラザビル市内第8区マディブ地区にある平成26年度草の根人間の安全保障無償「コンベ保健センター建設計画」にて建設したコンベ保健センターです。本事業の被供与団体であるNGO「メドゥサン・アフリック(MDA)」のルヴエゾ責任者は、2016年7月の竣工式以降、医療機関と医薬品を求めて15km走る必要がなくなったと説明しました。また、同責任者は、保健センターの運営状況につき、保健行政区局からの医師派遣と、センター独自に雇用したスタッフが勤務しており、「非営利の官民連携のモデル」となり得る良好な経営であると報告しました。コンベ保健センターのビキンドゥ医師は、現在センターが実施している子供の検診につき説明し、「コンベ地域の子供の栄養失調率は、全国平均7%に対し、10%に上る」旨報告し、同地域住民に対する更なる医療支援の必要性を訴えました。



コンベ保健センター内で医師取材するジャーナリスト



コンベ保健センター外で子供の健康診断(栄養失調対策)取材するジャーナリスト

最後の視察先は、ブラザビル中心街にある、平成27年度補正予算事業「若者の過激化予防策(UNDP経由)」の活動で、2017年5月に開設された若者向けのラジオ局「若者市民によるラジオ(RCJ)」です。ジャーナリスト達は、ラジオ局内を視察し、本プレスツアーに同行したアブシールUNDPコンゴ共和国事務所副所長、マルケス・デ・スーサUNICEF同所長、ブローワーWFP同所長はラジオが、ラジオ司会者の若者と議論の様子を取材しました。続いて、ヨンビRCJ調整員による「若者市民によるラジオ(RCJ)」局の説明が行われました。RCJは大学生13名による運営の下、1日10時間、ブラザビル市内、キンカラ(プール県)、キンシャサ市内で放送されており、放送するテーマは、人権、環境、保健、家族計画、市民の価値、ジェンダー、貧困対策、平和、また、若者に特化した青年犯罪、雇用、職業訓練等と多岐に亘ります。ヨンビRCJ調整員は「RCJ開局後、若者と社会にとって、議論の場、知見を交換する場所ができた」と述べ、日本による支援に感謝の意を示しました。



ラジオの司会者との議論に参加する国連(UNICEF, WFP, UNICEF)所長・副所長



スタジオ内でラジオ生放送の様子を取材するジャーナリスト達

プレスツアー後、各紙・テレビで次々と我が国開発協力の取組が報道されました。全国放映のテレビでは同プレスツアーの様子が9回報道されたほか、3月14日から20日にかけて、新聞社6社による計6本の記事が掲載されました。多くの国民が目にする新聞各紙および全国TV放送で開発協力事業が取り上げられることで、コンゴ共和国の国民による我が国の開発協力への理解がより一層深まることが期待されます。

#### 関連リンク(外部サイト)

[3月14日付グループ・コンゴ・メディア紙\(オンライン\)「外交団による日本の支援サイト訪問」](#)

[3月14日付ジェオ・アフリック・メディア紙\(オンライン\)「社会・人道: コンゴ\(共\)日本協力: 日本政府の成功」](#)

[3月15日付デペッシュ・ド・ブラザビル紙\(オンライン・紙面\)「マディブ地区: 栄養不良は児童を襲う」、「一般教育: 日本政府はブラザビルへ好影響の事業を実施」](#)

[3月16日付ヴォックス\(オンライン\)「日本、ブラザビルの投資先を訪問」](#)